



マガラ村(シリア)でお世話になっているイマッド家の家族と。かわいらしい子どもたちはいつも心を和ませてくれる(右から2人目が筆者)

# 砂と暮らし 砂に学ぶ

ITP  
だより

18

土壌浸食の現地調査のために調査地のクルド人の村に泊まる時は、いつもイマッド家にお世話になっていきます。彼らは食事、宿泊に限らず、言葉の通じない私に丁寧にクルド語を教えてくださいなど、大変お世話になっていきます。

## マガラ村(シリア)の生活(2)

初めは完全にお客さん扱いだったのが、目を重ねるにつれだんだんと家族同様に接してもらえるようになり、今ではシリアに新しい家族ができた気分です。

ここで生活する中であらためて感じているのが、水の大切さです。村には水道がないため、どの家も11月から4月の雨期に降る雨をサーリンジと呼ばれる地下に掘った貯水槽に溜めて、上水として利用していません。

しかしながら、井戸を持

たないイマッド家では、雨のほとんど降らない乾期にはサーリンジの水が底をついてしまいます。水は安いものではありません。ですが、次の雨期が来るまで、月に3回程度トラクターで近くの街まで水を買に行かなくてはなりません。水不足の不便さを痛感しました。

(鳥取大学大学院農学  
院 農学系 酒井裕和)

(水曜日に掲載)